

原材料高騰 値上げの品目もあれば値下げの品目も くら寿司・田中邦彦の「上げたら下げる」戦略

70  
創刊70周年

# 財界

Z A I K A I  
a Japanese business biweekly

新商品比率は4割超  
新事業創出のカギを握る  
村田製作所の  
「ユニークな人材育成術」

2022 10/19

◎インタビュー  
三井化学会長  
淡輪 敏  
前防衛大学校長  
國分 良成  
三起商行社長  
木村 皓一

世界が混沌とする中、経営者に求められる覚悟

変化を生き抜く  
人材づくり

キヤノン・御手洗富士夫の

「その国の文化、民族性に合わせた人事・雇用を！」

村田 博文



表紙の人  
東宝社長  
松岡 宏泰  
撮影 齊田 勲

令和4年10月19日発行(隔週水曜日)令和4年10月5日発売  
昭和28年10月3日第三種郵便物認可 第70巻第21号



いけだ・よしお  
大阪医科大学卒業。1996年大阪医科大学附属病院形成外科入局。同大学附属病院形成外科病棟棟長、東海大学病院形成外科・美容外科臨床助手を経て、2000年大阪いけだクリニック開院。04年銀座いけだクリニック開院。現在は東京皮膚科・形成外科総院長の他、東海大学病院形成外科非常勤講師、一般社団法人・JAAS日本アンチエイジング外科学会理事長をつとめる

# 第111回日本美容外科学会の学会長に就任、日本の美容医療のレベルアップ目指して 「安心・安全な医療を追求すること」で、 個人のスキル向上や業界全体の発展につなげたい

「最近では治療技術が発達してきたこともあって、美容医療に来る人が増えています」。長く美容医療の現場で活躍してきた池田氏がこの度、第111回日本美容外科学会の学会長に就任した。美容外科の技術の向上や普及を目的につくられた日本美容外科学会のトップとして、池田氏はいかに美容医療全体の底上げを図っていくか――。

## 美容医療は 全てのの人に必要なもの

――池田さんはこの度、  
「日本美容外科学会（JAPAN SOCIETY OF AESTHETIC SURGERY）」の第111回学会長に選ばれました。まずは、日本美容外科学会とはどんな組織なのか、そして、新会長に就任した抱負を聞かせてもらえますか。  
池田 日本美容外科学会は、美容外科の技術の向上や普及を目的につくられました。日本の美容医療をレベルアップさせる

池田 ええ。やはり、時代と共に新しい治療法ができたり、いろいろな技術が発展していく中で、いいものと悪いものが出てくると思っていますね。それはある程度仕方のないことなんです

ために、優秀な技術をもった医師が他の医師に技術を教えることよって、切磋琢磨しようとしている学会です。

美容外科医というのは、もともと自分たちのテクニックを秘密にしている、誰にも教えない人がほとんどでした。だから、見学したいと言ってもNGだったりするんですが、世界に行くとか見学はOKだったりして、テクニックを教えてくれたりもするんです。

――日本と海外との違いは何ですか。  
池田 わたしも以前からアメ

すが、本当にいいのであればお互いに勉強しあって、切磋琢磨していくべきです。  
悪いものはいずれ駆逐されていくでしょうから、本当にいいものを勉強していくことで、個

リカや韓国へ行つて、技術の勉強をしてきて、お互いに情報交換や技術の習得に励んできました。結局、海外の先生と交流をしたところで、お互いにその国に進出して患者さんを奪い合うわけでもないのです、そういう心配がないのだと思います。  
わたしが海外に行くようになった約20年前というのは、すごく失敗やトラブルも多くて、美容外科医になるということは医師としてレベルの低い人間だ、というレッテルを張られるような存在でした。  
しかし、歳をとりにくいと

人のスキルが向上し、それがひいては業界全体のレベルアップにつながるだろうと考えています。  
**外科的な治療は減少  
皮膚科的な治療が増加**

――業界でもいいですし、個人的でもいいんですが、最近、池田さんが注目している技術や治療はありますか。  
池田 わたしの友人で、米ワシントン大学の今井眞一郎教授が開発した薬はかなり注目されています。

飲んだ人に感想を聞くと、運動選手のパフォーマンスが上がったとか、経営者では業績が良くなったと言っている人もいました。  
当然、何にもしない人の能力がいきなり上がることはありませんが、努力している人たちの背中を後押しする効果があるのだと思います。

――これは若々しくありたいとか、そういうニーズが増えているということですか。

か、きれいでいたいとか、そういう欲求は人間が普通に持っているものですから、どんどん美容医療に対するニーズが増えてきました。今まで以上にトラブルなく、安心・安全な医療を追求しようということになっていて、この数年、美容医療の市場は急成長しています。  
わたしは現在、美容医療は全ての人に必要なものだと思っていますので、この業界の発展につなげばと考えています。  
――お互いに技術を向上させていくことで、業界全体の発展につなげよう。

池田 はい。わたし自身もそうですけど、やはり、いくつになっても若々しくいたいとか、歳をとりにくくないというのは人間の本能なので、そういうニーズは多いですよ。

美容医療というと、皆さん、外科的な手術のイメージが大きいと思うんですが、いわゆる手術に踏み切る患者さんは10人に1人くらいです。その分、機械をあてて治療するとか、薬を服用する治療は心理的な負担も少ないということ、最近増えているのだと思います。

――手術を受ける割合はそんなに少ないんですね。  
池田 そうですね。患者さんの立場で考えたら、手術と聞くのと、躊躇する人が出てくるのは当然です。ですが、美容医療はもうかなりの人に認識されるようになりまし、実際、点滴を打つとか、飲み薬を飲むくらいだったら興味はありますという人はすごく増えています。  
かつては、歳をとったからシワやシミが増えたとか、髪の毛

東京皮膚科・形成外科総院長  
**池田 欣生**  
Ikeda Yoshio

が薄くなったのは仕方ないと諦めていた人が多いのですが、これらは科学的に治療可能になってきています。

そういう意味で、ここ5年で外科的な治療は減ってきていて、皮膚科的な治療が増えてきています。

—— それと、この2年半のコロナ禍で何か特徴的な例はありますか。

**池田** コロナ禍の傾向で言うと、皆さんマスクを着用しているの、目の周りの小ジワや目の下のクマが目立つのは嫌だと言って、治療に来る方が増えています。

やはり、小さなシワが無くなるだけで、かなり若く見えるようになりまして、そういったことに気を配る人が増えていると思います。

あとは髪の毛の相談ですよね。昔からそうですが、これだけ髪の毛に悩んでいる人は多いのに、「髪の毛科」って無いんですよね。これは昔だったら歳をとったから仕方がないと言っ

めていたのかもしれませんが、最近はAGA（男性型脱毛症）の治療技術が発展してきたので、髪の毛の治療に来る人も多いです。

特に若い人を中心に治療に来る方が増えています。

—— やはり、顔のシワにしろ、髪の毛にしろ、外見や見た目を気にする人が多い。

**池田** ええ。われわれが10年くらい前に病院の名前を「東京皮膚科・形成外科」に替えたのは、肌のお悩みに真剣に向き合おうと決めたからなんです。

それはなぜかといったら、肌で悩んでいる人が本当に多いからです。それこそ、10年前なら、肌で悩んでいる人は普通に皮膚科へ行き、先生から「これは歳だから仕方ないね」と言われたら終わりだったわけですね。

ところが、最近では治療技術が発達してきたこともあって、美容医療に来る人が増えてきました。世に美容皮膚科という概念が無かったのに、そういう概念が定着したというのはすごい

ことだと思います。

### 運動、食事、睡眠の3つが基本

—— 裏を返せば、それくらい肌の悩みを抱えている人が多いということですね。

**池田** わたしはもともとインターネットに興味があって、いろいろな検査結果を見ていると面白いんですよ。

例えば、病院の検査結果を見ると、10年くらい前は形成外科は19位でした。それくらい検査する人が少なかった。でも、1位は歯科で、2位が皮膚科です。ということは、歯と皮膚に悩んでいる人が多いということじゃないですか。だから、東京皮膚科という名前にしたのです。

最近「醜形恐怖症（身体醜形障害とも呼ばれる）」と言って、見た目を気にするあまり病気になる人が増えているんですね。見た目を気にするのは誰にでもあることですが、例えば、髪型を気にするあまりに精神病

になってしまったりとか、日常生活に支障をきたしたりする人というのは、もう病気と判断されるんですね。

これが発症するのは18〜19歳くらいが一番多くて、2番目に気になるのは肌、そして、3番目に気になるのが目です。

1位髪の毛、2位肌というのは世界に共通しているの、自分が美容皮膚科という診療科目を選択したことは間違いではないかと思っています。

—— それと、世の中には経営者で80歳や90歳になっても見た目の若い人っていますよね。何かこうした人たちに共通していることはありますか。

**池田** やはり、よく歩いていたり、運動したりして、いいものを食べて、きちんと睡眠もとっていますよね。これって当たり前なことだと思っただけですが、意外にできていなかったりする人が多いですよ。

運動と睡眠については説明する必要もないと思いますが、食事に関しては、できるだけ若い

細胞を食べることも大事です。

若い細胞とは何かと言ったら、タマゴや種であったり、お肉だったら若い子牛だとか、魚であれば川に遡上する前の鮭だとか、こういったものをできるだけ摂るようにする。

できれば生で食べるのがいいんですけど、生で食べられないものもあるので、新鮮な野菜であるとか、旬のものを摂るよう

に心掛けてほしいと思いますね。

—— なるほど。新鮮なモノがいいと。  
**池田** 例えば、常温でもつものを考えてみてください。常温ですつともつというものは、加工食品であったり、保存料が多いということですから、モノ自体はどうしても古くなっています。

だから、そうしたものを避けて、腐りやすいものをできるだけ新しいうちに食べるのがいいと思います。

—— やはり、運動、食事、睡眠の3つが基本ですね。

**池田** そうですね。こうしたことを心掛けていくだけで、間違いなく病気のリスクや国の医療費は減ると思います。

わたしもいろいろな経営者の方と話をしている、若々しく働いている人に秘訣を聞いていくと、皆さん、ストレス耐性が強いというか、ものすごくストレスに対するケアが上手です。

自分の中でストレスを抱えていると感じた時には、温泉に行くとか、ヨガに行くとか、皆さん、自分がこういうことをすれば精神的に楽になるというポイントが分かっています。

もちろん、人間誰しも一定のストレスを抱えているわけですが、ストレスを抱えたままにすると精神的に良くないです。だから、うまく気分転換ができていくというのは大きいと思います。

### 心の健康を大切にしよう！

—— 気分転換がうまい人というの、神経質な人よりも樂觀的な人ですか。

**池田** そうなのかもしれません。自分が、たとえ、神経質な人であっても、自分なりにストレスの解消法を知っている人であれば、それでいいでしょうし、どんな時に自分は幸せを感じるのかとか、何をしている時が時を忘れる瞬間なのかとか、要するに、自分のことをどれだけ理解しているかが大事だと思います。

わたしが昔から言っているのは、心の健康を大切にしようということなんです。どういう人生が幸せかと考えたら、時を忘れるくらい熱中する時間がいかに多かったかだと思っんですね。いつも「何時にならないと仕事が終わらないからなあ」と思って仕事をしている人よりは、夢中になって時間を忘れて仕事に取り組んでいる人の方が圧倒的に人生の充実度は高いですよ。

だから、時を忘れて何かに熱中できることをやる。そういう時間を人生の中でいかに増やしていくか、また、1日の中でいかに増やしていくか。それが人生を充実させることだと思います。

すし、それが心の健康を保つということなのだと思います。

—— なるほど。熱中できる仕事をいかにつくるか。  
**池田** わたしは何も仕事だけではなくていいと思います。自分が好きだと思ったら、スポーツに打ち込むのもいいですし、音楽や絵画に打ち込むのもいいです。

人は誰しも最期の数年間を寝たきりで過ごすのではなく、ピンピンコロリと亡くなった方がいいですよ。だから、先ほど言った運動、食事、睡眠の3つを基本に、そういう時間を増やしていくことで、人生を楽しく過ごしてほしい。

もう一つは、歳をとっても若々しい人の特徴として、若い年代の人たちと会話していることが多いような気がします。同じ年代の人ばかりと付き合うのではなく、老若男女いろいろな人と会話することで、お互いに刺激になるでしょうし、人生が豊かで、楽しくなるのではないのでしょうか。